環境・地域に貢献する九州企業

西部特集
九州の新・成長戦略2014

環境への貢献は、現代企業に求められる必須条件となりつつある。一方で「環境」という言葉が示す意味は多様だ。地域という限られたエリアの環境から、地球環境という広い範囲まで及んでおり、企業の対応もさまざま。ここでは九州を拠点に環境への貢献を果たしている、地場のリーディング企業2社を紹介する。

日本乾溜工業

75周年を機に原点回帰

沢井（さわい）　博美（ひろみ）社長

日本乾溜工業は道路関連の安全施設工事などを主力とし、2014年7月で設立75周年となった。13年9月期は建設業と防災安全事業の伸長などで増収増益。14年9月期は2期連続の増収を見込む。同社は生活に不可欠な交通インフラの面で生活環境を支えるほか、地球環境に配慮した製品づくりも進めている。「100年企業」を目指す取り組みについて、沢井博美社長に聞いた。

―この7月で設立75周年を迎えました。

「節目の年であると同時に『100年企業』に向けた礎（いしずえ）を築くため、一から出直す時機でもある。13年10月から組織体制を見直し、新たに営業と技術を統括する部門を設けた。両部門にそれぞれの事業部を横断的に統括する各責任者を置き、建設・防災安全・化学品の3事業部に横串を刺した。社内の流れが変わり始めており、前期の業績を超えられそうだ」

―社長就任から2年半がたちました。

「営業マニュアルづくりを進めてきた。ところが、周年事業に合わせて資料を整理していると、30年以上前の営業マニュアルが出てきた。当社5代目社長で中興の祖と言える、金井松廣元社長によるものだ。表紙に『誰よりも多く売る人は商品について誰よりも広く深く知っている人である』とあり、私が考えてきたことと全く同じだった。偶然見つかったものだが、節目に合わせて原点に戻った感覚だ」

―なぜ商品を知ることは重要なのですか。

「商品がどのような経緯で生まれたかという根本を知れば、商品の本質的な狙いを理解できるからだ。当社は安全のための商品を扱っている。金銭的利益を第一に考えるのではなく、顧客が必要な商品を課題解決型で提案することで、必要な会社だと思ってもらえる」

―いま求められていることは何でしょうか。

「顧客である行政機関などと日々接している当社が、顧客ニーズをくみ取り、時代に合った商品づくりをメーカーに提案することが必要だ。多くのメーカーと取引があることは当社の強みだが、既存商品が100%と思っていてはいけない。当社の事業は最終的に人命を守ることにつながる。顧客にアドバイスできる知識があり、付加価値も提供できる。安全を売る会社であり、顧客を満足させることが社会の満足にもつながる」

―道路工事など生活環境づくりに携わる一方、地球環境に配慮する防草材「雑草アタック」が人気です。

「北九州市で間伐した竹が原料。『第10回エコプロダクツ大賞』で農林水産大臣賞を受賞して以来、いろいろなところから引き合いがある。環境に良いものは積極果敢に先取りしていく。後追いしても仕方がない」

―これからどのような会社を目指しますか。

「真面目で地に足をつけた事業が大事だと考えている。社の名前だけが売れれば良いというのではなく、社会的に認められ、安全をきちんと売ることができる企業でありたい。当社は事業を行うことがCSR（企業の社会的責任）を全うすることに直結し、社会に喜んでもらえる企業だ。目立たないかもしれないが、真面目に取り組み、社員にとっても働きがいのある企業であり続けたい」

【企業概要】……▽所在地＝福岡市東区馬出1の11の11、092・632・1050▽社長＝沢井博美氏▽従業員＝203人（連結）▽売上高＝124億9700万円（13年9月期）▽設立＝39年（昭14）7月▽URL＝www.kanryu.co.jp

堀内電気

太陽光発電20年の実績

堀内（ほりうち）　重夫（しげお）社長

堀内電気は福岡市南区に本社を置く電気工事企業で、近年大幅に業績を伸ばしている。中心となるのはメガソーラー（大規模太陽光発電所）の建設や販売、管理の各事業。創業以来培ってきた電気工事の技術と、約20年前から携わってきた太陽光発電のノウハウを生かすことで、顧客の信頼を得ている。堀内重夫社長に好調の理由と今後の展望を聞いた。

―メガソーラーのEPC（設計、調達、建設）や管理、販売事業が好調です。

「熊本、鹿児島の両市内で当社が建設した太陽光発電所に続いて、長崎県西海市で当社3カ所目となるメガソーラーパーク発電所『堀内ソーラーパーク発電所』を建設中だ。出力約1000キロワットで自社発電所として売電する。7月上旬に着工し、2015年2月の完成を予定している。また西海市内では地場企業と協力体制を築いており、今後も300カ所で、合計3万キロワット規模のメガソーラー建設を計画している」

―業績への寄与も大きいのでは。

「当社の売上高は数年前まで2億―3億円台で推移していたが、東日本大震災後にメガソーラー事業の伸びが大きくなった。EPC事業などの受注が広がり、14年3月期には前期比3倍近い売上高12億6000万円を計上した。さらに15年3月期は同20億円を見込んでいる」

―メガソーラー関連ではどのような実績がありますか。

「熊本市内で低圧分譲中の物件は10月をめどに完売予定で、鹿児島市内の物件は全24区画のうち残り4区画となった。EPC事業では九電工や西部電気工業を中心に受託している。また管理では、大手ゼネコンから2000キロワットクラスの発電所4件の管理を任されている。管理だけで言えば九州地域で50カ所程度にのぼる」

―強みはどこにありますか。

「当社の太陽光発電事業の原点は約20年前にあり、太陽光発電に古くから携わってきた自負がある。地場大手の電設工事企業とは、同社の太陽光発電事業立ち上げから協業してきた。当社は1997年ごろにモルディブで、太陽光発電システム設置の技術支援を手がけたことがある。また98年には同システムを開発し、インドネシアで環境関連展示会に出展した実績も強みだ」

―顧客に対するアピールポイントは。

「当社は規模が小さいながらも、土地の取得からすべてやる。最初は大丈夫かと不安になる顧客もいるが、実績を示すと納得していただける。極端に言えば、顧客が預金通帳を見て売電収入を確認すれば済むような、安心できるフルメンテナンス体制を築いている」

―今後の展望は。

「発光ダイオード（LED）照明の施工をはじめ省エネプランを一貫して提案する、電気のトータルプロデュースができる。太陽光など自然エネルギーは、原子力発電所が稼働したとしても今後も必要になる。そのため電気工事をベースとしながらも、太陽光発電の管理や維持・メンテナンスを手がけていきたい。販促面でも社長の私が顔をみせることで、顧客の安心につなげたい。〝九州の太陽光発電は堀内電気〟と呼ばれるようになることを目指している」

【企業概要】……▽所在地＝福岡市南区横手2の16の3、092・588・6180▽社長＝堀内重夫氏▽従業員＝23人▽売上高＝12億6000万円（14年3月期）▽創業＝86年（昭61）9月▽URL＝www.horiuchi-e.co.jp

EV充電スタンド設置に力

本社近くに設置したEV用充電器

堀内電気は1986年に堀内重夫社長が創業。一般電気工事をはじめとして、特別高圧電気工事や受変電設備工事など、さまざまな電気関連工事を手がけてきた。

福岡県や福岡市など自治体のほか、大手企業を主要取引先に持つ。また電気自動車（EV）の導入促進にも力を入れている。自社で運用しているほか、「充電スタンドの設置は電気工事屋の仕事だ」との堀内社長の考えを実践して、本社駐車場には充電スタンドを設置してEVの普及に貢献している。

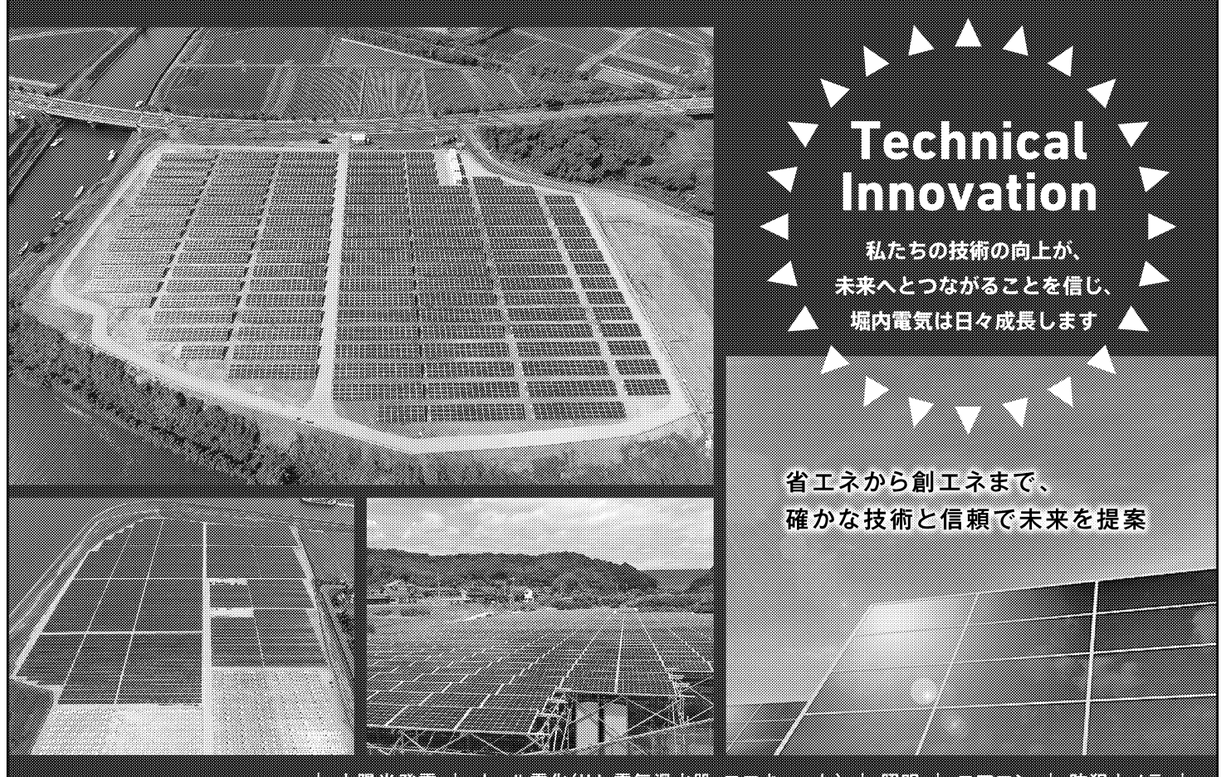
竹製防草材の知名度向上

「雑草アタック」を施工した歩道

日本乾溜工業は〝鉄の町〟福岡県八幡市（現・北九州市）で電解炉の電極用ピッチコークスを生産する化学会社として設立。戦後は安全衛生用品の販売や、現在の主力事業である道路施設などの交通安全工事へ事業を拡大した。

化学品事業ではタイヤメーカー向け不溶性硫黄を生産するほか、近年は防草材「雑草アタック」の知名度が向上。創業地の北九州で、森林整備でボランティアが刈った竹を購入し、天然素材のみの防草材として販売。その効果と自然な風合いが人気だ。

小さな支えが、いつか大きな支えとなる
私たち堀内電気はオール電化から太陽光発電システムまで、
確かな技術と最適なプランで地球にやさしい快適環境をお届けします



| 太陽光発電 | オール電化（IH・電気温水器・エコキュート） | 照明 | エアコン | 防犯カメラ |

HEC Smile! EcoLife
電気のトータルプロデュース
株式会社 堀内電気
無料お見積もりお問い合わせは 0120-026-180
堀内電気 検索 http://www.horiuchi-e.co.jp
本社 〒811-1311 福岡県福岡市南区横手二丁目16番3号 TEL 092-588-7030 FAX 092-588-7033
大野城営業所 〒816-0911 福岡県大野城市大城三丁目6番25号 TEL 092-503-3158 FAX 092-504-3689

おかげさまをもちまして、創立75周年を迎えました。
日本乾溜工業グループは2014年7月、**創立75周年**を迎えました。
「100年企業をめざして」をスローガンに、引き続き皆様からの信頼に応え、
地域社会に貢献し続ける企業をめざしてまいります。

安心を　「100年企業」をめざして ANNIVERSARY 75 NIPPON KANRYU INDUSTRY CO.,LTD　そして未来へ

環境にやさしく安全な社会の創造に向けてあくなき挑戦を続ける
日本乾溜工業株式会社
代表取締役社長　沢井 博美
〒812-0054
福岡市東区馬出1丁目11番11号　TEL 092-632-1050（代表）　FAX 092-632-1082
事業所：福岡・北九州・久留米・佐賀・長崎・熊本・鹿児島・宮崎・大分・木更津
工　場：北九州（黒崎）
http://www.kanryu.co.jp